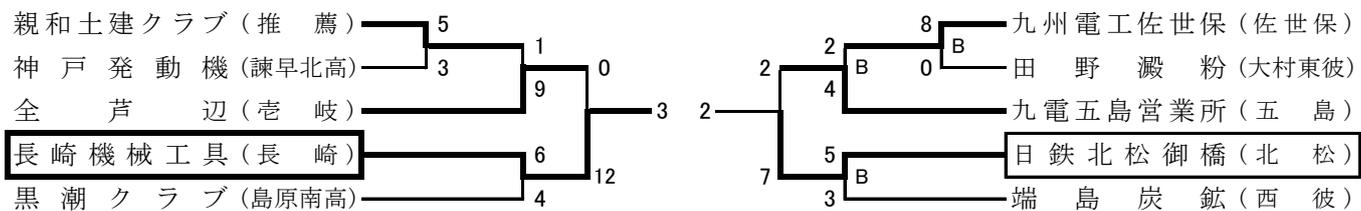


# 長崎地区チームの初優勝は、日鉄北松を倒した長崎機械工具

<b>第10回県下郡市対抗準硬式野球選手権大会</b>	会期： 昭和35年10月 8日(土)～9日(日)
	会場： A・長崎市宮大橋球場 B・三菱球場



前年の第9回大会から大会名に“選手権、”が付けられ、県内野球大会で最も権威ある大会となり。また、長崎新聞社の主催となったことから、県下郡市対抗準硬式野球選手権大会と刺繍が施された紫紺の大優勝旗が新調された。

開会式は快晴に恵まれた中、大橋球場で午前9時40分から行なわれた。県警ブラスバンドがまず入場、グラウンドを一周して選手の入場を待った。

次いで大会の開幕を告げるファンファーレが浦上原頭の空

高く鳴り響き、県警ブラスバンドの吹奏する行進曲によって審判団を先頭に、国旗と大会旗が姿を見せ、このあと前年度優勝の親和土建クラブ、九州電工佐世保、全芦辺、長崎機械工具、黒潮クラブ、日鉄北松御橋炭鋳、端島炭鋳、九電五島営業所、田野澱粉、神戸発動機の順で各地区優勝旗をなびかせながら観衆の拍手に迎えられて堂々の歩を進め、ダイヤモンドを一巡し中央に整列して開会式は始まった。

(昭和35年10月9日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)



## 佐々木が2ラン

【一回戦】大橋:第1試合 振球犠盗併残失

神戸発動機	000 200 010	3	7	6	0	1	0	7	2
親和土建クラブ	100 130 00X	5	4	2	2	2	0	5	1

1時間47分

【本】佐々木、大山 【三】渡辺 【二】山田

【神戸】打安点

⑤高内竜	3	0	0
⑥吉田	3	0	0
②中村	3	0	0
⑧大山	4	2	1
⑨4岩永	4	1	0
⑦山田	4	2	1
③不動寺	2	0	0
④東	2	0	0
9高内裕	2	0	0
①中島	3	0	0
H石丸	1	0	0
	31	5	2

【評】佐々木が五回に放った2点本塁打が効いた。2-2同点で迎えたこの回、安打の柴山を二塁に置いて中村が右前に勝ち越し打。続く佐々木が左翼席に叩き込んで引き放した。佐々木は初回にも中前打で吉田を迎えており、この試合の殊勲者だった。

昨年優勝の立役者だった末藤が抜けたため、左腕の渡辺を補強して臨んだがスピード不足でカーブに頼るピッチングだったが、佐々木の一発ですっかり立ち直り、八回に大山からランニング本塁打されたものの後半は余裕を持って伸び伸びと投げていた。

神戸発動機の全身は大洋造船、林兼造船で通算5回目の出場となるが、4年ぶりとなるために新人が大半。地区予選で藤田イーグルス、信用金庫に逆転勝ちし、決勝で長崎刑務所に延長で勝利し、選手権に駒を進めてきたが、四回に大山と山田の短長打で1点挙げ、尚も一死満塁の大量点機に捕逸による得点だけだったのが惜しかった。

【親和】打安点

⑥柴山	4	1	0
④吉田	3	1	0
⑤中村	4	1	1
②佐々木	4	2	3
⑦竹内	4	1	0
①渡辺	3	1	0
⑨9若元	2	0	0
③大原	3	2	0
⑨8浜田	3	0	0
	30	9	4

親和土建は今年のメンバーから優秀な選手が県外に就職したため、投手の渡辺をはじめ、捕手の佐々野、遊撃の柴山などを補強してきた。

# 九電工、全員安打

【一回戦】三菱:第1試合 振球犠盗併残失 1時間13分

九電工佐世保	012 020 3	8	2	3	4	1	1	7	0
田 野 澱 粉	000 000 0	0	2	1	0	0	1	2	1

【本】水田 【三】淵上、井口 【二】淵上

【九電工】打安点

⑥松島	4 2 0
⑦淵上	4 3 0
⑤荒木	2 1 1
①井口	3 1 1
⑧坂木	3 2 3
②水田	4 1 2
⑨松崎	2 1 0
③岩松	3 1 0
④深田	4 1 1
29 13 8	

【評】今年の第12回県民体育祭で優勝した九電工佐世保が、全員安打を放って七回コールドに仕上げた。澱粉の2投手は球威が無く狙い打ちされ、二回二死後に四球を与え岩松と深田に痛打され、三回は淵上に二塁打された後に四球に安打を許し、味方の失策も加わって2点を簡単に取られた。調子に乗った九電工打線はリリーフの荒木にも打ちまくり、五回に2点、七回には三塁打の井口を坂本が左中間に三遊間を抜いて還し、水田の左中間ランニング弾で3点を追加してコールドに破った。田野澱粉は昨年までは全澱粉で出場。メンバーはほとんど変わらず5年連続出場だが、九電工の若い井口投手の小さく曲がる球にタイミングを外されて、僅かに2安打を放ったのみで、二塁ベースを一度も踏めずに惨敗した。

【澱粉】打安点

⑤草野	3 0 0
④大島	3 1 0
②1荒木	3 0 0
⑨小川	2 1 0
H2吉岡	1 0 0
①中野	2 0 0
H7川上	1 0 0
⑥中村	2 0 0
⑧森	2 0 0
③北川	2 0 0
⑦9田中	1 0 0
22 2 0	

【黒潮】打安点

⑥満尾俊	4 2 0
③43川田	4 1 1
⑧高田	4 0 0
⑦関	4 0 0
①満尾孝	4 1 0
②飯島	4 1 0
⑤原口	3 1 0
④宮崎作	1 0 0
3金子	2 0 0
4宮崎齊	0 0 0
⑨森本	3 1 3
33 7 4	

【二回戦】大橋:第2試合 振球犠盗併残失 1時間39分

黒潮クラブ	000 040 000	4	6	0	0	0	3	2	3
長崎機械工具	102 000 30X	6	3	2	0	3	1	6	1

【三】森本、原 【二】平山

【長崎】打安点

⑤平山	4 4 0
③小西	4 4 1
3平尾	0 0 0
⑦8佐々野	4 2 0
⑨原	3 1 3
②川内	4 0 1
⑧1的野	4 1 1
④浜辺	3 0 0
4森清	1 0 0
⑥藤枝	4 2 0
①茂	2 0 0
#宮原	1 0 0
34 12 6	

【評】長崎は初回1点、三回2点を奪い優位に立ったかに見えたが、拙攻続きだった。初回は1点先取した無死満塁に川内の左直で三重殺を喫し、三回は中心打者の不振で2点のみに止まった。もっと慎重に攻めていれば、大量点を挙げる事ができたかも知れない。それでも茂が三回まで打者9人に抑え試合を優位に進めていた。だが五回に満尾孝、飯島に連打されて宮原に交代したところで原口がバントヒットの無死満塁。一死後に森本の左前打を後逸して走者一掃の三塁打となり同点。二死後に川本の安打で逆転された。この失点に長崎は慌て気味で、満尾投手のロー・カーブを大振りするばかりで策の無い攻撃を繰り返していたが、七回に無死満塁の反撃機を迎え、2、3番が凡退後に原の右越え三塁打で逆転勝ちした。

勝ったとはいえ、長崎の試合ぶりはほめられたものではない。今大会では県庁から宮原と佐々野を、西高クラブからの的野らを補強している。

島原南高地区代表の黒潮クラブは5年前大会に出場しているが、数年ぶりに地区予選に出場し、島原市役所との決勝戦を制して二度目の出場だった。

# 芦辺が親和クラブを圧倒

【二回戦】大橋:第3試合 振球犠盗併残失

全 芦 辺	300 020 4	9	3	0	1	2	1	4	1
親和土建クラブ	000 100 1	1	3	3	0	4	0	4	3

(7回コールド)

【本】佐々木 【三】平田忠、平田彌、片岡2 1時間23分

【全芦辺】打安点

②土肥	3 1 0
⑧平川	4 1 1
⑦片岡	4 3 3
④平田忠	4 1 2
①大久保	4 0 0
⑤下条	4 2 1
⑨赤木	3 0 0
③平田彌	3 1 0
⑥柳沢	3 2 1
32 11 8	

【評】親和土建はエースの渡辺が利き腕の左手を負傷し、打者一人に投げただけで降板するという誤算もあったが、救援の中村、吉田がいずれも球威が無くフリーバッティングのように打たれた。親和土建は頼みの渡辺が投げられないのと、立ち上がり3点の負担を背負ったのにガックリしたのか意気消沈。大久保の真っすぐに落ちるドロップを打ち込めず、わずかに四回に当たり屋の佐々木が左翼フェンス直撃のランニング本塁打で1点を返したのみ。昨年の優勝チームの片鱗さうかがえなかった。老岐地区代表は第1回大会から前年まで9連敗中。芦辺も2年ぶり5回目の出場で「ことしこそ本土勢にひと泡ふかせたい」と豊田敬八郎監督が張り切っていたが、前年度優勝で推薦出場の親和土建クラブをコールドで倒したのは大金星。ベスト4へと進出した。

【親和】打安点

⑥柴山	2 0 0
④514吉田	3 0 0
⑤15中村	2 0 0
②1佐々木	3 2 1
⑦竹内	3 1 0
①8渡辺	3 1 0
⑧949若元	2 0 0
③大桑	3 0 0
⑨892浜田	2 0 0
33 4 1	

## 昭和35年の全国大会における長崎県代表チームの戦績 ①

天皇賜杯第15回全日本軟式野球大会【51チーム】

(S35. 8. 13~:千葉県)

日本冷熱工業【一】2-1 常盤茨城鉱業所(茨城)  
 【二】0-1 ブラザーミシン(愛知)

第11回西日本準硬式【26チーム】5. 26~:大阪府

佐世保市役所【一】7-6 金沢市役所(石川)

【二】3-2 三星紙業(高知)  
 【準々】0-1 日清紡富山工場(富山)

# 白熱のシーソーゲーム

## 延長12回、御橋炭鋳が勝利

【二回戦】三菱:第2試合 振球犠盗併残失

日鉄北松御橋	100 100 100 002	5	3	3	3	0	2	11	2	(延長12回) 2時間10分
端島炭鋳	001 000 020 000	3	7	4	3	5	1	10	3	

【本】畑田 【三】波田、砂田、牛島 【二】尾崎

【御橋】打安点

⑥ 亀沖	4 1 1
⑤ 木原	6 2 0
③ 進藤	5 2 0
⑨ 波多	4 2 1
9 米倉	1 0 0
1 小松	0 0 0
①9 畑田	5 1 1
⑦ 井上	5 1 1
⑧ 米村	5 1 0
④ 西浦	5 0 0
② 砂田	5 1 0
45 11 4	

【評】3年連続5回目出場の日鉄北松御橋と、3年連続4回目出場の端島炭鋳。最後まで息詰まるシーソーゲームを展開したが延長12回に御橋が敵失で勝利を握った。御橋が初回に波田の三塁打で先制すれば、端島も三回に安打の船津が二盗と敵失で三進後に安達のスクイズで同点とした。しかし御橋は四回に畑田が左越えランニング本塁打で、七回にも砂田の三塁打と亀沖の犠飛により2点のリードを奪った。

四回以降、端島打線は鳴りを潜めていたので、御橋がこのまま逃げ切るかに見えたが、八回の端島は先頭・安達の三遊間安打を皮切りに牛島の三塁打を含む4安打集中でまたも同点にこぎつけ、九回は一死満塁のサヨナラ機を迎えた。しかし川本に強攻させて三→捕→一の併殺になり延長戦にもつれ込んだ。

御橋は10回から小松を救援させ粘る端島をカーブ、シュートでかわし、12回に進藤の中前打と外野失で1点を拾い、さらに井上の適時打で2点差をつけて逃げ切った。

【端島】打安点

⑥ 安達	3 3 1
④ 川本	6 1 0
⑤ 尾崎	6 3 1
⑦ 牛島	6 2 1
② 神谷	4 1 0
① 毛利	5 0 0
③ 森	5 0 0
⑧ 船津	3 1 0
⑨ 矢野	4 0 0
42 11 3	

# 闘志で粘り抜く

## 植松が殊勲の大三塁打

【二回戦】三菱:第3試合 振球犠盗併残失 1時間37分

九電工佐世保	100 001 000	2	2	1	1	1	1	6	3	【三】植松 【二】井上
九電五島営業所	110 002 00X	4	5	2	2	0	1	5	3	

【九電工】打安点

⑥ 松島	4 1 0
⑦ 淵上	3 1 0
⑤ 荒木	3 1 1
③1 井口	4 1 1
⑧ 坂木	4 1 0
② 水田	4 1 0
① 杉山	1 0 0
3 岩松	3 1 0
⑨ 瀬戸山	1 0 0
9 松崎	3 0 0
④ 深田	3 0 0
33 7 2	

【評】九電五島のチーム結成は戦後まもなくだが、初めて出場権を握った。地区予選の大半を逆転勝ちしてきた闘志と粘りを本大会でも発揮して五島代表チーム3勝目を挙げ、二度目の準決勝進出を決めた。

九電工佐世保が初回に立ち上がり乱調だった監督兼任の山下に対し、先頭から3連打して1点を先取。なおも無死二三塁だったが暴走で追加点の好機を潰した。以後は、立ち直った山下のローカーブを打ちあぐみ、第一戦で見せたような当りは全く見られなかった。

これに対し、九電五島は才津の安打と敵失で初回到1点、二回には代わった井口にも小細工な攻め方で野手を掻き回し、敵失で三進した夏井を三村のきれいなスクイズで勝ち越した。

六回に四球と犠打を井口の適時打で同点とされた、その裏に一塁に平山を置いて植松が左中間三塁打、さらに夏井が四球の一三塁で、夏井が一二塁間に挟殺の間に、植松が本塁を突いて加点した。

五島は、才津と佐々木の三遊間コンビに、外野陣の植松と平山ら補強選手の活躍で、優勝候補の九電工佐世保に競り勝った。

【五島】打安点

⑥ 佐々木	4 1 0
⑤ 才津	4 1 0
③ 井上	4 1 0
① 山下	4 2 0
⑨ 平山一	4 0 0
⑦ 植松	3 1 1
② 夏井	2 0 0
④ 三村	3 1 1
⑧ 平山邦	3 0 0
31 7 2	



【長崎】打安点

⑤ 平山	4 3 2
④ 浜辺	3 1 0
4 森清	1 0 0
⑦ 佐々野	2 2 1
7 小西	2 1 0
⑨ 原	2 2 1
② 川内	4 1 1
⑧ 的野	2 2 3
③ 平尾	2 1 1
⑥ 藤枝	1 0 1
① 茂	2 2 1
H 橋本	1 1 0
1 宮原	0 0 0
26 14 11	

【準決勝】第1試合 振球犠盗併残失 (5回コールド) 1時間1分

長崎機械工具	520 23	12	2	5	1	4	0	5	2	【三】的野2
全芦辺	000 00	0	4	0	0	0	0	0	0	

【評】勝負は立ち上がりで決まるというアツくない試合だった。前日の親和土建との試合で好投した芦辺の大久保投手も、ややかたくなっていた。球質は重く、真っすぐに落ちるドロップはかなり威力を持っていたが、コントロールに苦しんでいた。しかし余りにもドロップを多投するため効果が上がらず好球必打と待ち構える長崎打線の餌食となった。

長崎機械工具はこの大久保を果敢に攻め、初回に6安打を集めて5点を先取、二回には的野が2点三塁打して大久保をKO。代わった赤木からも四、五回に加点した。

芦辺は投手の出来もよくなかったが、バックの守備も悪く何でもない当たりが安打になるケースがあり、これが点差を大きくした。立ち上がりの大量失点にガッカリしたのか攻めても元気がなく、下手投げの茂のボールになる球に手を出して凡打を繰り返すばかり。五回から登板の宮原からも安打が奪えず、とうとう一人の走者も出せなかった。

【全芦辺】打安点

② 土肥	2 0 0
⑧ 平川	2 0 0
⑦6 片岡	2 0 0
④79 平田忠	2 0 0
⑤ 下条	2 0 0
①7 大久保	2 0 0
③ 平田彌	1 0 0
⑨71 赤木	1 0 0
⑥4 柳沢	1 0 0
15 0 0	

### 昭和35年の全国大会における長崎県代表チームの戦績 ②

第15回熊本国体(27チーム)には不出場  
九州から4チーム出場し、西部ガス小倉(福岡)が優勝。開催地の熊本は肥後相互銀行が2勝のベスト4。佐賀(目達原駐屯部隊)と大分(佐伯信用金庫)は初戦敗退。

第4回高松宮賜杯全日本大会 9.6~:徳島県  
(2部)長崎西高クラブ【一】0-2 田村電機KK(山形)  
1部(10チーム)は九州ブロックから、熊本が出場し準優勝。

【準決勝】第2試合 振球犠盗併残失

日鉄北松御橋	002 010 400	7	4	2	0	2	0	7	0	1時間52分
九電五島営業所	001 001 000	2	8	1	1	0	2	3	3	【二】進藤2、木原

【評】御橋は七回に集中攻撃して追いつがる九電五島を振り切った。三回に四球後、木原と進藤の短長打で2点先取の御橋だったが、その裏の五島は四球を足場に平山邦、佐々木の安打で満塁となる所だったが、走塁ミスにより二三塁間に挟殺された後で、代わった小松の暴投により1点を返した。六回にも一死後に才津、井上の連打に投手暴投で1点と小刻みに追い、なおも二三塁と一打逆転の好機を作ったが後続が凡退して、勝ち越すことが出来なかった。

ここまでは九電五島にもかなりの期待が持たれていたが、連投の山下は七回に疲れが見え、カーブの威力が無くなった。日鉄北松御橋はここですかさず木原と進藤が連続二塁打、続く波多も左前適時打し、3個の敵失も加わって大量4点を追加し、小松の好投で五島を振り切った。

【御橋】打安点

⑥ 亀 沖	4 1 0
⑤ 木 原	5 3 2
③ 進 藤	5 3 3
⑨ 波 多	5 1 1
⑧ 畑 田	4 1 0
7 井 上	1 0 0
⑦ 8 米 村	3 0 0
④ 西 浦	4 2 0
② 砂 田	4 1 0
① 井 浦	1 0 0
1 小 松	3 0 0
39 12 6	

【五島】打安点

⑥ 佐々木	4 2 0
⑤ 才 津	3 1 0
③ 井 上	4 1 0
① 山 下	4 0 0
⑨ 平 山	一 3 0 0
H 江 浜	1 0 0
⑦ 植 松	3 0 0
② 夏 井	3 0 0
④ 三 浦	2 0 0
⑧ 平 山 邦	3 1 0
30 5 0	

# 長崎(機械)が初優勝

## 殊勲! 原がサヨナラ打 初回に先制点も

### 救援 宮原が好投

【決勝戦】 1時間42分 振球犠盗併残失

日鉄北松御橋	002 000 000	2	3	1	2	0	0	8	1	【二】平山、川内2
長崎機械工具	101 000 001x	3	3	4	3	0	0	11	1	木原、波多

【評】大会10回目にして長崎地区が優勝を飾ることができた。その殊勲者は原だった。2-2のタイで迎えた九回裏、先頭の藤枝が右前テキサス打、暴投二進の後で宮原が送って一死三塁とした。ここで北松は疲れの見た小松を畑田に代えて二者を歩かせ満塁策を取り、原と勝負に出た。原は0-2から外角低目を見事に中前に弾いて藤枝を迎え入れた(写真)。

この原は初回にも先制点をたたき出している。二塁打の平山を三塁に置いて一塁強襲安打で、有利な試合展開としたが、後がいけない。攻めても守っても拙いことばかり。

三回の北松は一死後に小松が右前打。亀沖の二ゴロで走者が代わって、木原が左にイレギュラーの二塁打で同点。ここが投手の交代時期かと思えたが、進藤の遊ゴロ失の後に波多に左越二塁打で逆転に成功した。

三回裏の長崎は原、川内の安打などで一死満塁に的野の遊ゴロ本塁低投のエラーでタイにしたが佐々野、小西が凡退して勝ち越せなかった。八回も先頭・川内の二塁打も得点に結びつかなかった。

三回も八回も走者を三塁に置いて佐々野だったがスクイズは無く簡単に打たせたのは作戦であろうが、長崎の攻撃ぶりは歯がゆいばかりであった。

このモタモタぶりがなければもっと早く勝負はついていただろうが、茂に未練を持ちすぎたのも苦戦の一つ。四回途中から代わった宮原は外角ギリギリに球を集めて北松打線をかわし、九回表に招いた一死一三塁のピンチも小松野スクイズした打球をよく拾い本封して事なきを得た。

最後まで目が離せないスリルのある緊迫した決勝戦であった。

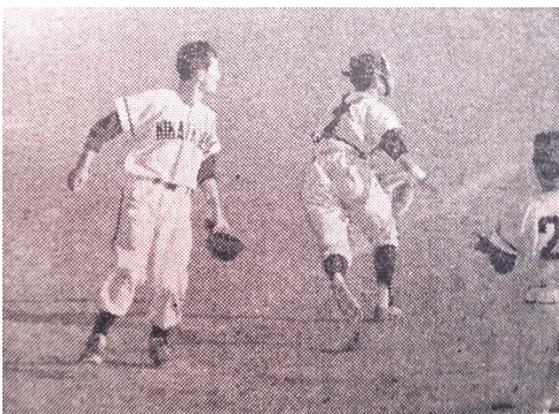
(昭和35年10月10日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【御橋】打安点

⑥ 亀 沖	5 1 0
⑤ 木 原	4 1 1
③ 進 藤	4 1 0
⑨ 波 多	4 1 1
⑧ 1 畑 田	4 1 0
⑦ 8 米 村	4 2 0
④ 西 浦	2 0 0
② 砂 田	3 1 0
① 小 松	4 1 0
7 井 上	0 0 0
34 9 2	

【長崎】打安点

⑤ 平 山	2 1 0
④ 浜 辺	2 0 0
⑨ 原	5 3 2
② 川 内	4 3 0
⑧ 的 野	4 0 0
⑦ 佐々野	4 0 0
③ 小 西	3 1 0
3 平 尾	1 0 0
⑥ 藤 枝	4 1 0
① 茂	1 0 0
1 宮 原	2 1 0
32 10 2	



閉会式で優勝した長崎機械工具の阪正主将に新調された大優勝旗、桑原会長杯、読売杯や賞状、賞品が贈られ、準優勝の日鉄北松御橋にも準優勝杯に賞状、賞品が贈られた。また本大会で活躍した選手にも個人賞が、県警察 brass band の吹奏のうちにそれぞれ贈られ、大会会長・市川謙一郎長崎新聞社長の閉会あいさつ。最後に「君が代」、「若い力」の吹奏で国旗と大会旗、連盟旗が降ろされ、閉会宣言で大会の幕を閉じた。

#### 個人表彰者

賞品提供=文明堂、長崎トヨタ自動車、岡政 浜屋、東洋美装店、県町村会

- ◇最高殊勲選手賞=原広彌(長崎) ◇最優秀投手賞=宮原直善(長崎)
- ◇首位打者賞=平山義之(長崎)10-7 ◇優勝監督賞=松浦継義(長崎)
- ◇敢闘賞=小松勤(北松)、茂貢(長崎)、川内克彦(長崎)、進藤忠義(北松)
- 亀沖了(北松) ◇美技賞=浜辺勇(長崎)、平山義之(長崎)